

DEBUT 首長

埼玉県東松山市長 森田 光一氏



もりた・こういち 1952年東松山市生まれ。埼玉大学教育学部卒。家業の測量事務所で行政書士・測量士として働いた後、95年東松山市議会議員に。市議を2期務めた後、2003年埼玉県議会議員。県議2期目の10年8月に東松山市長選に当選。座右の銘は「知行合一」

市民の「顧客満足度」を重視 職員の意識改革へ新評価制度

埼玉県東松山市 埼玉県中央部に位置する人口9万人の都市。都心まで電車で1時間。国内最大のウォーキングの祭典「日本スリーデーマーチ」の開催地。B級グルメでは焼き鳥のまちとしても知られる。事業所の数も多く財政状態は比較的良好。

——地方議員としてのキャリアが長かった

市議8年、県議7年と計15年も議員を務めたが、議員ではまちづくりに直接関与するとか、市民生活に直接インパクトを与えるような施策はなかなかできないという実感を持っていた。やはり、執行権を持った市長になって、まちづくりを自分の力でやりたいとの思いが強くなった。幸い、職員を含め人脈があり、市長としてやれる自信があった。

——市長として、どのような分野に力を入れるのか

前市長が推進してきた福祉施策は評価しており今後も継承していくが、その他の施策では、インフラ整備が遅れていたり、産業振興が少し弱くなったりし

ていると感じた。私は自立できる財源を確保するため、農業、商業、工業の各分野を活性化していきたい。

企業誘致では自らトップセールスをして企業回りをしているし、民間事業者による工業団地の造成も、道路の整備などインフラ面で支援している。

商業の活性化ではまず、ソフト事業が大事と思っている。具体的には東武東上線・東松山駅前広場の整備が完了したので、広場を使った朝市など民間のイベントを積極的に支援していきたい。また、スリーデーマーチの開催地として、ウォーキングをコンセプトにしたまちづくりを展開しようと考えている。当面、市内の名所旧跡などを示したマップ作成など情報提供に力を入れる。

——積極的な情報公開や顧客満足度重視の都市経営の考えを打ち出しているが

重要な問題に関しては、政策形成の早い段階から積極的に市民に情報を公開し、市民と議論しながら政策を決定していく。

一方で、顧客としての市民の

満足度向上を目指した都市経営にも取り組む。企業経営のようにPDCA（プラン・ドゥ・チェック・アクション）のサイクルをしっかりと回して、市民満足度を測りながらもコストを意識した事業プランをつくり、実行に移していく。その前提として、職員の意識を変えることが必要なので、仕事の成果を重視する新しい人事評価制度の運用を4月から始めたところだ。

——議会との関係は

議員にも市政の政策形成段階から参加してもらおうと考えている。会派ごとに話し合いの場を設け、次年度の予算とか3カ年の計画の決定などで対等に付き合っていきたい。安易に住民投票を実施することは、市長も議会も責任放棄しているに等しい。とにかく、議会とは徹底的に議論を重ね、緊張感ある二元代表制を維持していきたい。（聞き手は

主任研究員 市川 嘉一）